

い  
ず  
み  
さ  
の  
教  
育



問合先  
学校教育課

子どもが集まる、学びを広げる「学校図書館」に向けて

2016年は「学校図書館年」とされ、世界の関係者が学校図書館のあり方について語り合う国際的な大会が、初めて日本で行われました。また、2014年からは、学校司書が新たに法制化されるなど、学校図書館を取り巻く環境の変化に関心が集まって数年が経とうとしています。では、学校図書館とはどんな場所なのでしょう。

学校図書館は、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を持っています。「読書センター」としての学校図書館活用は、読む力や人間性を育みます。読書によって子どもたちは、語彙や表現力を豊かにし、他の価値観と出会い、思考力や表現力を高めます。「学習センター」としては、図書館を活用することにより授業が豊かになり、深まると言われています。授業で学んだことに関連した資料を探したり、それをまとめたりする活動は、子どもたちの学習に奥行きを与え、主体的で深い学びを促します。さらに「情報センター」として、学校図書館活用をもとにした情報活用能力の育成があげられます。様々な教科の調べ

学習などを通して、何が問題になっているのかを把握し、必要な情報を収集分析して自分の判断を練り上げ、それをもとに行動できる力を子どもたちに付けることができます。

泉佐野市においても、学校図書館司書教諭の免許を持つ教員が増えつつあり、学校司書も各校へ週1〜2回来校し学校図書館の活用をサポートしています。各校では、読書週間に図書委員や教員のおすすめ本を紹介したり、子どもたちがポップを作って本の魅力を伝えたり、たくさん本を読んだ子どもには、しおりをプレゼントし表彰するなど、様々な取組を行っています。また、保護者や地域の人が読み聞かせをしてくれるなど、子どもたちの読書活動を支えてくれています。授業においても、百科事典に触れさせ索引を使って知りたいことを調べる活動を行ったり、社会見学へ行く前にはその施設に関連したことを調べるなど、図書館を活用した学習を行っています。

今後、もっと子どもたちが集まり、積極的に学びを広げることが出来る学校図書館に向けて、取組を進めていきます。



学校園紹介



確かな学びを育む学校づくり  
～上之郷小学校～

上之郷小学校では、平成30年度から大阪府の「確かな学びを育む学校づくり推進事業（TM事業）」の研究指定を受け、新しい時代に必要となる資質・能力を育成する取組、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業についての研究を進めています。

「文章を正確に読み取る力」「自分の考えをまとめる力」「説明する力」の3つの力を高めることを目標とし、そのためにすべてのクラスで、授業の中で「めあて・まとめ・ふりかえり」の時間を確保するとともに、子どもたちに3つの力を意識させるために、その中から1つを1時間の授業の中でつけたい力として示しています。また、自分の考えをノートにまとめ、ペア・グループ学習の時には自分のことばで相手に伝え、深め合う機会を作るなど、子どもたちが主体的・意欲的に取り組める授業となるよう実践・研究しています。

さらに、大阪府が学力やコミュニケーション力の基礎となる言葉の力を子どもたちが確実に身につけられるよう作成した教材「ことばのちから」を朝の学習の時間や国語の時間に活用しています。

上之郷小学校は、学校教育目標「豊かな心とたくましい体を育み、主体的に学び判断し実践できる子どもの育成」のため、今後とも全教職員で取り組んでまいります。



本校の研究活動「研究授業って？」  
～中央小学校～

本校では、学校の教育目標のもと、学校の研究部という組織を核に「豊かな心と確かな学力～自ら考え、伝え合う力の育成(国語科)～」という研究主題を設定し、日々の授業もその研究主題に沿って研究活動を進めています。

日々の授業を充実させるためにクラス・学年の子どもたちの学習の様子や行動の実態を把握し、その上でどんな授業をしていけば子どもたちの力になるのかを研究し、毎日授業に取り組んでいます。

そして、その検証や教員自身の指導力向上のために各学年が年に1回ずつ計6回の「研究授業」を行います。

- ①その授業でどんな力をつけようとするのか（目標やねらい）
- ②今の子どもたちの現状や実態はどうなのか（児童観）
- ③その子どもたちにどんな教材を与え、その教材にはどんな教えるべき内容があるのか（教材観）
- ④それをどのような方法で教えるのか（指導観）
- ⑤こんな発問（学習内容に関わる子どもたちへの問い・質問）をすれば、子どもたちはどんな表現（意見・発言・手を挙げる・難しすぎるなど）をするのか
- ⑥どの場面で一人で（グループで）考える・発表するか
- ⑦黒板に書く内容（板書）をどうするか、それは適切だったか

このようなことを常に考え、授業に臨んでいます。特に「研究授業」では、これらのことを全教職員で授業観察し、授業後の研究協議会で意見を出し合い検証し研究を深めています。そのため、全教職員が研究授業や研究協議会に参加できるように、本校では「研究授業」の日、当該学年は5時間目に研究授業を行い、それ以外の学年は午後から下校します。

このような機会に教員自らの授業・指導のあり方を振り返り、日々の授業がよりよいものになるように、めざすべき授業の構築に向けて研究しています。

